

## 泰緬鉄道建設をめぐる戦争記憶の比較史

—日本人将兵、イギリス人捕虜、ビルマ人労務者—

池田一人（IKEDA Kazuto）

人文学研究科 / 外国語学部ビルマ語専攻



はじめに

## 問題の所在

### ■ 本日のテーマ

地域研究における歴史学：現在の地域理解に資する歴史学  
フィールドにおける「歴史観」：ビルマにおいて「過去をみる」とは？

### ■ 泰緬鉄道とは

日本軍建設のタイ＝ビルマ間の415キロの鉄道、43.10完工  
突貫工事、過酷な捕虜・労務者使役

犠牲者：連合軍捕虜（英/蘭/豪/米）6.2万動員～1.2万死亡  
労務者（緬/泰/馬/東印）20数万？動員～半数以上死亡？

### ■ 問い

旧捕虜側：「旧日本軍の戦争犯罪」告発

旧日本軍側：反発、贖罪・和解活動

地元側：労務者の希薄な記録・告発、沈黙：なぜ？

### ■ 目的

連合軍捕虜・日本軍将兵・労務者の経験と記憶の比較史のこころみ

ビルマ地域研究にフィードバック：戦後ビルマ・ナショナリズムの問題へ

## 1. 泰緬鉄道建設の労働力と犠牲



豪戦争記念館



## 1-1. 泰緬鉄道の建設

### ■ 建設の背景：

1942.6 日本軍ビルマ全土に軍政発布  
6/20 「泰緬連接鉄道建設要綱」～6/28 着工

### ■ 建設：

鉄道連隊

(鉄九) タイ側 262.5km ノーンブラドック～ニーケ  
(鉄五) ビルマ側 152.4km ニーケ～タンビュザヤ

第一鉄道材料廠、第四・第五特設鉄道隊

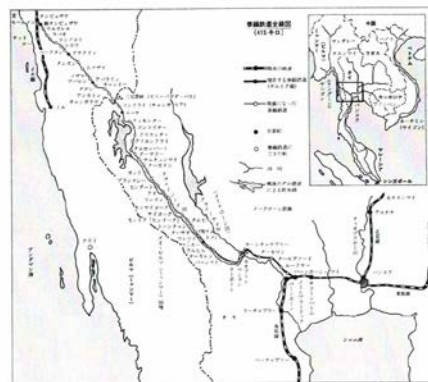
鉄道資材：SEA現地調達

車両はC56×20輛 + 現地機関車・貨車  
労働力：連合軍捕虜・現地労務者

### ■ 工期：

当初：43年末

宣教悪化で4か月短縮命令～43.10/25完工



地図 泰緬鉄道全線図 (吉川利治「泰緬鉄道」より)

## 1-2. 労働力の構成

### ■ 日本軍・捕虜

日本軍： 12,500人

連合軍捕虜： 62,000人 (英3万、蘭1.8万、豪1.3万、米700など)

当初から英軍・豪軍捕虜を主要労働力として想定  
タイ側に5万人あまり、ビルマ側に1万人余

### ■ その死者

日本軍： 1,000人 (「80人」説もあり)

連合軍捕虜： 12,400人 (英人将兵は25%の死亡率 → WWII英軍全体で5.6%)

### ■ 労務者

タイ側： 華人苦力1.5万人+タイ人1.45万人など

ビルマ側： 10.6万人 (推計) 「チュエタツ (汗の兵隊)」

マラヤ・ジャワ： 8.5万人 (推計) インド系・中国系も

半数が死亡？

## 2. 連合軍捕虜の記録と日本軍



豪戦争記念館



## 2-1. 強制労働

### ■ 捕虜の強制労働実態

日記・メモ・スケッチ、連合軍の現地調査と裁判、帰還後の手記や出版、  
日本軍の戦争犯罪告発、研究対象化

### ■ 捕虜移送開始

42.6～10 (タイ側) チャンギー収容所から英軍3000人、甘言の誘い出し  
(ビルマ側) オランダ軍1240人

### ■ 作業：

カーンチャナブリーまでの区間工事、メークローン橋 (「戦場にかける橋」)  
=建設工事と捕虜管理の拠点、3つの俘虜病院

### ■ 工事本格化

42.10～ 捕虜移送と工事の本格化 → 43.2 工期短縮命令「半年で」「スピード」  
密林での建設が中心に タイ側230kmに30余りの捕虜収容所 = 1 収容所8km  
木を切り倒す、路盤の土手作り、切り通し、中小の架橋、原始的道具のみ

## 2-2. 日本軍による捕虜取り扱い

### ■ 苛烈なあつかい

工期短縮厳命後は苛烈さが倍加、赤痢罹患でも現場で失禁しながら労働、現場で死亡も、「石持ちの罰」、ビンタ・肉体的虐待は普通

### ■ 朝鮮人軍属

日本人からの差別でさらに厳しい捕虜の扱い、2年契約で朝鮮半島から、日本軍の体質に関わる問題として従来から論点化

### ■ 軍事・精神文化

「所命必遂」：上官の命令・任務は天皇の命令、理不尽でも抗命不可能

「生きて虜囚の辱めを受けず」：41.1東條英機の名で戦陣訓広布

：捕虜になることは万死に値する恥

→ 捕虜に対する極端な蔑視

## 2-3. 雨季と傷病、死者

### ■ 俘虜収容所

捕虜の管理、収容所の監視員はほとんどが朝鮮人軍属

43年～監視員不足・労働力不足・工期短縮 → 捕虜・労務者に皺寄せ

43.3「医者なし、病院入院できず、行軍は徒歩」「1800人中1000人患者」

第二分所の食糧は「半定量」1日あたりコメ250g 副食乾魚 生野菜1/3 1ヶ月つづく

### ■ 雨季

43年雨季は1ヶ月早く4月中旬～連日雨、現場と収容所が水と泥まみれ

コンコイターのコレラ病棟に数百人、地面は糞尿まみれ、いずこも同じ

### ■ 傷病

伝染病：赤痢 一般的、コレラ43.6頃ピーク、ジフテリア、マラリアなど

熱帯性潰瘍：肉を腐らせ骨を露出させる、手足を切断へ

最悪の死亡率：チャンギー捕虜収容所からのF部隊の英豪人7000人=37.8%死亡

## 3. 労務者の記録



インドネシアへのローム  
シャの引き上げ (1946)  
出典：Wikipedia

## 3-1. タイ

### ■ 些少な記録

詳細で豊富な捕虜の証言と比べ、労務者の記録はおどろくほど少ない

当事者の記録は、**ビルマのリンヨン・ティッルウィン**以外見当たらない

### ■ 吉川利治研究 [1994]

42.6～地元タイ農民、9「泰緬連接鐵道建設二関する協定」で日給など、

12僧侶の殴打～衝突～脱走（バーンポーン事件）、43.3～華人雇い入れ

### ■ 背景

東南アジアで唯一植民地化されずに独立、日本軍進駐も軍事同盟

ピブーン政権は日本軍から陰に陽に威迫

消極的抵抗でタイ人労務者保護

## 3-2. 東インド

### ■ 「ロームシャ」

日本占領期をとおして日本軍の労役従事がひろく行われる

自発的に語られることは少なく、研究調査やジャーナリズムの告発で記録

### ■ ジャワ島での徴兵：

ジャワ島で挑発されたロームシャは「200万人以上」

15～40歳労働人口の8%、移動可能な人口の17%

### ■ 倉沢愛子研究 [2002]

ジャワ島チレボンの証言者

「現地での労働と思っていたが騙された」「1500人とともに連れて行かれた」

「重症患者や労働できないものは生きのまま埋められた」

「反日抵抗したが鎮圧」「1959年にインドネシア政府の援助で帰国」

## 3-3. マラヤ

### ■ 中原道子研究 [1993]

泰緬鉄道研究会 (1990発足) での現地調査・研究

1991年夏にマレーシアで新聞広告だして証言者募り90人から話を聞く

### ■ 徴用

日本軍によるゴム・プランテーション等での徴発、まとまった数の労働者、居住区は奥まっけていてに目につかない場所、当時19歳のインド人タッパーは家のそばを歩いていて連行、半ズボン・上半身裸・サンダル、シャツ支給は半年後

### ■ 労働

タイ側拠点パーンボンで検便と検疫、種痘とコレラ予防注射、数日行進して現場へ、インド系は家族で、掘建小屋、便所は穴を掘り竹の板渡しただけ、皆草むらで用を足す  
労働時間は1日8～20時間も、ジャングル開削・地面を掘る・土砂を運ぶ・枕木やレール運ぶ、賃金不払いも

医療事情は捕虜より若干まし、マラリヤ・下痢は日常、病気で労働できないと賃金なし、赤痢・コレラも、コレラでひどい時には1日何十人も死亡

### ■ 死者数と帰還

日本側記録：7.8万人徴用、3万弱の死亡、死亡率38%

英軍資料の死亡率：マラヤ人で51%、ジャワ人で40%

中道調査：プランテーション帰還は20～30%、50%帰還率は1例のみ

## 3-4. ビルマ

### ■ リンヨン・ティッルウインの記録：

文学作品として残されている点で異色、1964『死の鉄道の上で』、

1968『死の鉄路—泰緬鉄道 ビルマ人労務者の記録』（国民文学賞第二席）

### ■ 「汗の兵隊（チュエタツ）」：

ビルマNのビルマ独立軍 (BIA) = 「トゥエタツ（血の兵隊）」

汗の軍隊も当初、盟友日本軍に協力という意味？しかし否定的な語感で定着ティッルウインも1942年にデルタから志願、宣伝主任・分隊長・班長・一般労務者の区別

### ■ 現場：

ビルマ族だけでなく地元のカレン族・モン族も

現場監督は日本兵「クメカ」、ビンタ・石持ちの刑、監視は捕虜より緩い、地元モン人行商が捕虜と物物交換で罰受け2人死・1人発狂、時が経つに連れ悪化、食糧も医薬品も欠乏、

雨季の最中の橋梁工事では3昼夜ぶっ通しで作業、コレラ・天然痘も

捕虜にも何度も遭遇、ボロボロの服装、靴なしも

### ■ 帰還：

泰緬鉄道開通後に、決死の覚悟で仲間とふたりにて逃亡

モーラマイン経由でヤンゴンまで

## 4. 日本と欧米における 泰緬鉄道の戦後



## 4-1. 連合軍の調査と裁判

### ■ 問い

おのおのの戦後、泰緬鉄道の経験がどのような記憶になったか？  
各個人・社会のなかでどのような出来事、問題性となって展開したか？

### ■ 連合軍の抗議：

44.9 楽洋丸撃沈～1300人の英豪捕虜のうち149人が米潜水艦に救助  
44.12 英政府がスイス公使通じて抗議

### ■ 調査と裁判：

45 日本敗戦後、連合軍は調査団派遣～捕虜の墓地調査・整備  
46 チャンギー収容所でBC級裁判：3000人中2000人が泰緬鉄道関係者  
死刑32人中25人が同関係者

## 4-2. イギリス人捕虜たちの戦後

### ■ 「戦場にかける橋」：

52 ビエール・プールのフランス語小説～54英訳  
57 英米合作の映画化：時代考証無視のハリウッド流英雄譚に → 旧捕虜側と旧日本軍将兵側に反感

### ■ 手記・回想録の出版：

英で戦争経験の手記・回顧録出版＝圧倒的多数が泰緬鉄道関係  
邦訳：ローリング [1984]、キンヅイク [2003]、チャーカー [2008] など

### ■ 日英関係への影響：

70s 対英投資本格化、71 昭和天皇の訪英～英紙の非難  
88 天皇重体 + 89 天皇崩御：英紙は辛辣な記事  
95 対日戦勝50周年も日本代表は招待されず

### ■ 捕虜たちの態度：

①頑強派（日本のすべてを嫌う）  
②穏健派（補償を求める） ③和解派

### ■ 変化：

98 平成天皇の英公式訪問のころから  
英政府の1万ポンド特別慰労金：  
日本政府が54年にスイス人抑留者に2000ポンド補償、  
英政府は賠償交渉せず



## 4-3. 戦後日本にとっての泰緬鉄道

### ■ 広池俊雄 元南方軍鉄道隊参謀長

71 『泰緬鉄道—戦場に残る橋』：  
日本軍鉄道連隊の技術的到達点の記録  
捕虜扱いは「残念」「天災と人災」のみ

### ■ 永瀬隆 元カーンチャーナブリー憲兵分隊通訳

45.9 連合軍の墓地調査行に通訳として同行  
63～タイを毎年訪問、贖罪和解の活動へ  
76 元捕虜と日本軍関係者の再開を計画：  
～ローリングスらの著書を翻訳へ  
79 靖国神社に泰緬鉄道C56機関車  
の展示に抗議活動  
85 タイで供養の寺院奉納の活動

### ■ ふたつの戦後

「広池」と「永瀬」：  
アジア太平洋戦争経験の旧日本軍将兵の  
考え方・感じ方の二つの極  
たぶん、「広池」がより広範



## 5. 現代ビルマにとっての泰緬鉄道



## 5-1. 言及される労務者

### ■ 労務者という集団性

異なる集団性：

「捕虜」：軍の明確な命令系統と高度な組織性、戦争経験で固い結束

「労務者」：確固とした集団性・主体性の欠如、多様な動機と経路でいつとき場を共有

### ■ 例外的な集団訴訟

マレーシアの華人・宋日開の告発：

3年8か月の建設従事の未払い賃金支払いをもとめて

### ■ 東南アジアの庶民の世界観？

「王朝期からのいくさは耐え忍ぶべきもの」

「上座部仏教のビルマ・タイでは来世リアル、輪廻転生という未来志向」

「荼毘に付された遺骨と遺灰は単なる廃棄物」「庶民の死者に墓はない」

「祖父母以前の祖先の名は知らない」「過去はたやすく忘却、こだわりはない」

→ 集団性や世界観という本質論的議論だけで、説明されたことになるか？

## 5-2. ビルマにおける泰緬鉄道文学

### ■ 泰緬鉄道のビルマ文学作品

リンヨン・ティッルウィン の2冊：

『死の鉄道の上で』(64)、『死の鉄道—泰緬鉄道 ビルマ人労務者の記録』(68)

マウンティン 『あの三年』(45)、『農民ガバ』(47)

ミヤワジィ 『血の河はあふれ』(64)

ルードウ・ウー・フラにも短文『死の鉄道』や『風とともに』に背景として

### ■ リンヨン・ティッルウィンはなぜ書いたか？

前書き：

「侵略戦争を受けた国民のさまざまな災禍や悲劇のさま」

「ファシズムの悪逆非道振り」

「日本の軍国主義者たち、悪しきファシズム体制」

=アウンサンとタキン党の**ビルマ・ナショナリズム**の栄光を称揚する意図

## 5-3. ビルマ・ナショナリズムの神話化

### ■ ビルマ・ナショナリズム

植民地期 第3世代Nタキン党への大衆的支持と政庁弾圧～国外逃亡

40～41アウンサンらと日本陸軍「南機関」のむすびつき

日本占領期 タキンらの忍従、抗日地下組織、45.3/27抗日一斉蜂起

独立交渉期 47タキンらによる対英独立交渉の成功、7/19アウンサン暗殺

ウー・ヌ期 48.1/4独立～内戦と国軍の平定、14年間の議会制民主主義期

ネーウィン期 1962.3軍事クーデター、以来半世紀+αの軍政 (2021.2～第3軍政期)

→ 正統性の欠如、ビルマNによる正統化の広報強化・文化政策強化

### ■ 「泰緬鉄道」の記憶の場所

ティッルウィンの小説は、ビルマNが神話化されてきたなかで必要とされたN小説

「泰緬鉄道」はすでに教科書からも消滅、ビルマN文脈以外で出てこない

ビルマNの神話化はいつから？ → ウー・ヌ期はまだ、ネーウィン期から：

「泰緬鉄道」とともに「アウンサン」「タキン」「パンロン会議」「民族大同団結」…など

### ■ 大衆ナショナリズムとしてのビルマN

政権維持の具としてのビルマN、大衆文化としてのビルマNの研究はほとんどなされていない

## 5-4. ビルマ・ナショナリズムと消費文化

### ■ タイの「成功」

カンチャナブリーの一大観光地化  
JEATH博物館の人気



### ■ ビルマの追従

2016.1/4

「死の鉄道博物館」オープン



## 5-5. 記憶の比較史から見えること

### ■ ビルマの泰緬鉄道の「不在」？

かくも異なる3者の「泰緬鉄道」の経験と記憶

英日の「泰緬鉄道」=戦争犯罪と責任、贖罪と和解

ビルマの「泰緬鉄道」=「不在」の印象、なぜ？

### ■ なぜかくも平板で、一様にビルマNに回収されるのみか？

なにの不在か？

「軍政下の言論空間の不在」

「個人的経験が社会に共有され昇華される経路の不在」

問いの予断：

「反省すべき戦争犯罪と贖うべき罪」「達成されるべき和解」「形成されるべき市民社会」

### ■ 地域研究のスタート地点

「WWII /日本占領の経験とは、ビルマ人にとって何であったのか？」

「戦争の記憶が一貫して回収される先のビルマNとは何か？」

「否定されることない英雄としてのアウンサンのナショナリズムとは何か？」

→ この意味でのビルマでの戦争記憶の研究、ビルマの大衆N研究はまだなされていない